

2月から続く全国一斉休校のため、6月スタートとなり、遅れた授業を取り戻すために、夏休みも例年より短くなったこの1年でしたが、いよいよ2学期の終業式を迎えました。

みなさんはいかがでしょうか、私は、とても長い1年を感じました。いつ終わるとも知れない、感染状況と、新しい生活様式という条件付きでの学校再開、社会活動のスタート。ともすると閉塞感に押しつぶされそうになってしまう中、みんなで力を合わせ、とりあえずはここまで来られたな、という感じがしています。

1年生の校外学習の中止、キャンプや修学旅行の延期と、さらには日帰り日程への大幅な変更。部活動では3年生の最後の大会はすべて中止となりました。夏休みは遅れた授業を取り戻すために短縮となりました。体育大会は半日日程に。合唱コンクールは中止。

いろいろなことが、いつも通りにはできなくなり、それぞれに工夫や努力、我慢が必要な事ばかりでした。みんなよく頑張ってきましたね。

しかし、その代わりに活動として、8月に開催された、支所大会のかわりの大会での、3年生を中心とする各チームでの頑張る姿。日帰りとなってしまったキャンプや修学旅行のかわりの行事での君たちの笑顔など、私としては、心が救われた場面もありました。何よりも、毎日の学校生活で見せる君たちの明るさに、先生たちも頑張らなくては、と励まされました。

しかし、世界がこんな事態になって、我々は、学んだことがありました。それは、普通に生活ができることの「有り難さ」です。普通に学校に通えること。普通に友達とお話したり、遊んだりすること。普通に勉強や運動ができること。これらすべては、実は全然「普通」のことではなくて、「有難いこと」なのだ学びました。先月の朝礼でもお話をしましたが、「有ることが難しい」と書いて「有り難い」なのですね。「有り難い」の反対言葉は「当たり前」です。

大変な事ばかり、嫌な事ばかりにとらえがちな、現在の社会の状況であり、新型コロナウイルス感染症ですが、少なくとも「当たり前」と思っていた日々の生活が、実は「有り難い」ことである、ということ、教えてはくれました。この気づきは、おそらくはおとずれであろう、感染の収束した後の時代にも、持ち続けていきたいものですね。

何はともあれ、あとわずかです。新しい年を迎えます。2021年は、どんな年になるのでしょうか。コロナのことは引き続き、世界中で細心の注意を払い続ける必要があるでしょうが、こんな時であるからこそ、心の中は、明るい未来を信じ、希望が満ち溢れるものであることを願っています。

それではみなさん、ご家族とともに、よい年をお迎えください。1月7日に元気に会いましょう。

以上でお話を終わります。